

次期固定翼哨戒機(P-1)をめぐる動向

平成20年度からの性能評価

現在、海上自衛隊が使用する固定翼哨戒機(P-3C)の後継機である「次期固定翼哨戒機(P-1)」の試作機(XP-1)の性能評価が実施されています。XP-1の性能評価は、平成20年度の厚木基地への乗り入れ以降、平成23年度までの予定で行われていく予定です。



性能評価が行われているXP-1

平成23年度末にも配備予定との通知

このようなか、2月15日に防衛省から市へ、P-1を平成23年度末から厚木基地に配備する計画であり、それに伴い、関連する施設を平成22年度から整備する予定である旨の通知がありました。

これに対し、大木大和市長は「市民の負担の増加が懸念されるものであり、この通知をもって受け入れられるものではない」とのコメントを発表しました。

このP-1配備の通知については明らかでない点も多いことから、今後も国に対して照会を行うなど、十分な説明と対応を求めています。

厚木基地と空母艦載機

厚木基地に関するさまざまな問題のうち、市民に大きな影響を及ぼしているものの一つに、横須賀を事実上の母港とする米海軍空母ジョージ・ワシントンの艦載機による航空機騒音があります。

空母が横須賀へ入港する際には、艦載機が厚木基地へ飛来します。空母の入港期間中は、厚木基地を拠点として飛行を繰り返すため、市民は大きな騒音被害を受けます。中でも、空母が出港する前に行われるNLP(夜間連続離着陸訓練)、滑走路を空母の甲板に見立ててタッチ&ゴーなどの訓練を繰り返すことから、基地周辺に甚大な騒音被害をもたらします。

このNLPについては、昨年は4月末〜5月初めと9月末の2回実施されましたが、いずれも硫黄島において行われました。

市では、NLPが厚木基地で実施されないよう、これまでも取り組んできており、今後もすべてのNLPが硫黄島で行われるよう、引き続き国や米軍に対し強く働きかけていきます。

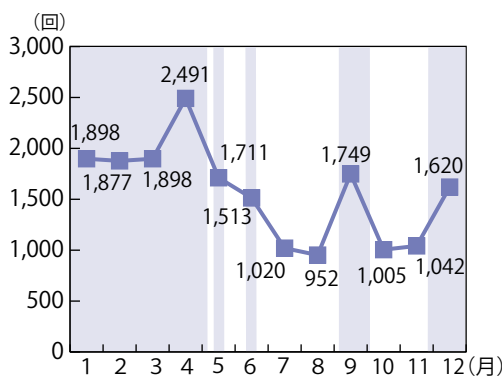


空母ジョージ・ワシントン(米海軍ウェブサイトより)

航空機騒音の測定状況

市では、航空機騒音被害を把握するため、市内5か所に自動記録騒音計を設置し、年間を通して連続騒音測定を実施しています。昨年1年間の測定結果は次のとおりです。

昨年1年間の騒音測定回数



※騒音測定回数は滑走路北約1帯の住宅地における70dB(デシベル)以上、5秒以上の継続音です。

■空母ジョージ・ワシントンの横須賀入港期間

現在、大和市長は、空母艦載機移駐や次期固定翼哨戒機をめぐる動向など、厚木基地を取り巻くさまざまな問題に直面しています。市では、市民の負担軽減につながるよう、これらの動向を注視し、適切に対応していくとともに、日ごろ受けている騒音被害の軽減について国や米軍に働きかけるなど、基地問題の解決に向けて取り組んでいきます。

10。 問 市役所基地対策課基地対策担当(2020)503